**1 南木佳士「歩いてから読む牧水」**

学生時代から、①タイケイ的な読書というものをしたことがない。各年代でなく引き受けざるをえなかった悲喜の状況のなか、そのとき出合った本を、それこそいきあたりばったりで読んできた。高校時代にＡの小説を文庫で手に入るかぎり読んでみたのは、特に初期作品群の古風を②ヨソオった＊な物語のなかに遊べたからであり、ちょっとだけ③フクザツな家庭④カンキョウかられるための格好の手段だったからだ。の作品では『　Ｂ　』『　Ｃ　』くらいでしか遊べなかった。だから、五十歳を過ぎたいまでもそのほかの作品の読まず嫌いが続いている。

医学部を卒業してすぐに第一線の病院の内科医となってからは、医学書以外の本を読んでいる時間がなかった。まわりをみても、小説なんて読んでいる医者は一人もいなかった。そういうなかで、人の死が日常　 D 　となっている⑤イリョウ現場が、なんだか医学生のころに思い描いていたのと大いに異なるグロテスクな場所だと気づき、その⑥イヨウな有様を言葉に置き換えて、だれかの共感に訴え、とりあえず気味の悪い渦の中に引き込まれないでいようと考えたところから作家と医者のＥ　　　のわらじをはくようになった。

書くと、読まなくなる。小説を書いているときに他人の作品を目にすると、Ｆ無意識のうちに影響を受けてしまうのが怖い、と亡きＧさんはエッセイに記していたが、まさにそのとおりで、すでにすべてのことは書きつくされているのではないか、とうなだれ、寝つきの悪い夜を重ねることになる。ならば、作者の立場を⑦ホウキして、一読者として⑧ヘイオンな日常をおくれば、と思いもするのだが、そうなると先に述べたように、グロテスクな深海に引き込まれ、二度と浮かび上がってこられなくなるＨ不安感を処理するすべがなくなる。

要するに欲張りなのである。むかし話が例外なく教えるごとく、欲張りじいさんには決まってしい末路が待っているのだ。

語注

精緻＝非常に細かいところまで注意が行き届いて、よく整っていること。

問1　二重傍線部①～⑧のカタカナを漢字に直せ。（2点×8）

①〔　　　　　　　〕　②〔　　　　　った〕　③〔　　　　　　　〕

④〔　　　　　　　〕　⑤〔　　　　　　　〕　⑥〔　　　　　　　〕

⑦〔　　　　　　　〕　⑧〔　　　　　　　〕

問2　傍線部Ａ「芥川龍之介」の作品を次から一つ選べ。（4点）

ア　人間失格　　イ　の　　ウ

エ　鼻　　　　　オ　銀河鉄道の夜

〔　　　〕

問3　空欄Ｂ・Ｃに入る夏目漱石の作品を次から二つ選べ。（4点×2）

ア　　　イ　つちやん　　ウ　金閣寺

エ　三四郎　　　オ　走れメロス

〔　　　〕

問4　空欄Ｄに入る三字熟語を答えよ。（4点）

〔　　　　　〕

問5　傍線部Ｅの空欄に適当な二字の熟語を入れて慣用句を完成させよ。（4点）

〔　　　　〕

問6　傍線部Ｆ「無意識」に関連して、次の①〜⑤の□に「無」「不」「非」「未」のいずれか一字を入れ、正しい三字の熟語を完成させよ。（1点×5）

① □鮮明　② □批判　③ □発達

④ □十分　⑤ □常識

①〔　　　〕　②〔　　　〕　③〔　　　〕　④〔　　　〕　⑤〔　　　〕

問7　傍線部Ｇ「開高健」の作品を次から一つ選べ。（4点）

ア　裸の王様　　イ　海と毒薬　　ウ　砂の女

エ　飼育　　　　オ　こころ

〔　　　〕

問8　傍線部Ｈ「不安感」に関連して、次の①～⑤の□に「感」か「観」のいずれか一字を入れ、正しい三字の熟語を完成させよ。（1点×5）

① 価値□　② 達成□　③ 人生□

④ 世界□　⑤ 優越□

①〔　　　〕　②〔　　　〕　③〔　　　〕　④〔　　　〕　⑤〔　　　〕

練習問題〈熟語の成り立ち〉

次の熟語の成り立ちを例にならって答えよ。

　例　空席（空いた席）

①　急流　（　　　　　　　　　　）

②　雷鳴　（　　　　が　　　　　）

③　握手　（　　　　を　　　　　）

④　森林　（　　　　と　　　　　）

⑤　無限　（　　　　　　　　　　）

【解答】

問1　①体系　②装（った）　③複雑　④環境　⑤医療　⑥異様

　　　⑦放棄　⑧平穏

問2　エ

問3　イ・エ（順不同）

問4　茶飯事

問5　二足

問6　①不　②無　③未　④不　⑤非

問7　ア

問8　①観　②感　③観　④観　⑤感

【練習問題解答】

①急な流れ　②雷（が）鳴る　③手（を）握る　④森（と）林　⑤限り無い

【50字要約例】

いきあたりばったりで読書をしてきた。医者になってから小説を書き始めたが、他人の作品は読めなくなった。（50字）